

年末の風物詩のひとつである「現代用語の基礎知識 選 ユーキャン新語・流行語大賞」。今年の年間大賞は、38年ぶり2度目の日本一となったプロ野球・阪神タイガースの今季スローガン「アレ(A.R.E.)」が選ばれました。

また、『三省堂 辞書を編む人が選ぶ「今年の新語2023」』の大賞には、地球温暖化が看過できないレベルであることを示す「地球沸騰化」が選ばれています。

2024年にはどんな言葉が生まれるか楽しみです。来年も本DMをよろしくお願いたします。

パイプシステム通信編集部

動画のご紹介

「2023東京水道展」でご紹介したスマート水道工事システム PIPROFESSOR (パイプロフェッサー) の動画が、弊社ダクタイル鉄管ホームページでもご覧いただけます。



【QRコード】

<https://www.kubota.co.jp/product/ironpipe/products/movie/index.html>

水道管路の漏水検知サービス

弊社では、水道管路（铸铁管・ダクタイル鉄管・鋼管）の漏水箇所を絞り込みを支援する「漏水検知サービス」を開始しました。※対象は呼び径300以下

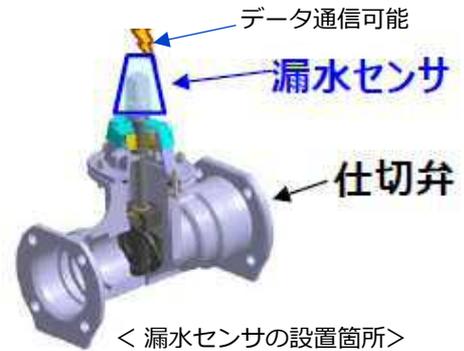
管路の維持管理をする上で、漏水検知は重要な課題となっていますが、現在は音聴調査が主流で、熟練技能と根気が必要な作業となっています。

本サービスは、仕切弁に漏水センサを取り付けることで、漏水箇所特定の一次スクリーニングとして設置箇所から管路長で約150m以内の漏水可能性を評価することができるので、漏水箇所の絞り込みが可能となり、効率的に漏水箇所を特定することができます。

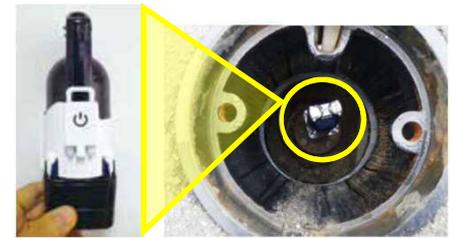
弊社のグループ会社である（株）クボタ建設で実施している弁点検・修繕業務と併せて行うことで、より効率的に作業を行うことができます。

また、重要管路など特定の管路に漏水センサを常設し、周囲の漏水の有無をモニタリングすることにより、地上漏水に至る前に事前に対策し、被害を抑えることにも活用できます。

ご興味ございましたらお気軽に弊社営業担当者までご連絡ください。



＜漏水センサの設置箇所＞



＜漏水センサ外観＞

＜設置状況＞

*漏水検知サービスは株式会社日立製作所が提供するサービスを採用しています。

施工情報システムⅡ ポリエチレン管の施工を実施

昨年度から「施工情報システム」を採用していますが、刷新された「施工情報システムⅡ」ではポリエチレン管の施工管理も可能との説明を受けました。本年9月、ポリエチレン管工事の際に施工情報システムⅡを使用した結果、スマートフォンを利用し容易に施工管理を実施することが可能となり、管種を問わず同一システム上で施工管理が可能というメリットが大きいことを実感しました。

チェックシート上での管番号の表示方法など、まだ課題を感じるものの、全体としては使い易いシステムになっていると評価しています。

クボタグループには、我々にとって使い易いシステム開発の継続を大いに期待しています。



＜エー・エイチ・テック株式会社 代表取締役 堀川 晃 様＞

残留塩素濃度管理システムの施工

at 新潟県新潟市

新潟市は人口に比して市域が広く、管網末端での残塩確保に苦慮しています。現在、本設型の水質監視装置を増設しているところですが、導入コストや施工性、維持管理が課題です。

貴社の残留塩素濃度管理システムは、残塩測定と残塩低下時の排水の2点に機能を絞り、バッテリー駆動で電気工事不要のシンプルな構成に可能性を感じました。

今回、露出型ボックスを設置し、5月から7月にかけて

フィールドテストを実施したところ、残塩確保だけでなく、条件設定を適切に行えば捨水量を節約できることもわかりました。水質監視装置は、人口減少社会での水質管理の切り札です。今後は毎日検査（色、濁り）への対応も期待します。



＜新潟市水道局 技術部 水質管理課 庭山課長補佐 様＞